

[自主研究]

埼玉県動植物画像・文字データベースの構築

嶋田知英 小川和雄 三輪誠 長田泰宣

1 目的

生物多様性の保全は、今や社会的に広く認められた価値であり、身近な野生生物や自然環境を保全することは埼玉県にとっても重要な課題である。このような生物多様性保全を行う上で、動植物の分布状況やさまざまな自然環境に関する情報を知ることは、基本的な課題である。また、このような情報を広く県民に提供することは、自然環境の保全意識を高める上でも、保全活動を支援するためにも大切である。

そこで、埼玉県内の動植物分布状況や自然環境に関するさまざまな情報を収集し、生物多様性データベースを構築するとともに、広く県民に生物多様性情報を提供するため、インターネットWEBによる生物多様性データベースを構築し公開する。また、このデータベースを用い、野生生物の生息状況と環境要因や保全状況との関連について解析を試みる。

2 方法及び結果

データベースソフト(MS-Access)を用い、「生物多様性調査」、「さいたまレッドデータブック」、「ガンカモ科鳥類生息調査」、「傷病鳥獣保護事業実績」、「埼玉県昆虫誌」、「環境アセスメント評価書」など、埼玉県内の動植物分布状況などに関する文献資料や、独自に行った動植物分布調査等のデータをデータベースとして蓄積した(表1)。

次に、このデータベースの情報を公開するため、インターネットWEBによる公開手法を検討し、WEB版埼玉県生物多様性データベースを作成した。なお、オリジナルのデータベースには個別の観察情報等が蓄積されているが、公開に当たっては、このデータを集計し、埼玉県全体の種リストや、市町村別の記録地図などを作成し公開することとした。リストや地図の作成は、データベースより出力したテキストファイルをもとに、HTML変換や、市町村塗りわけプログラムを用いた。さらに「さいたまレッドデータブック」や「さいたま身近な生き物図鑑」などを加えWEB公開版のデー

表1 埼玉県生物多様性データベース種数一覧

分類群	種数
植物	3124
昆虫	351
鳥類	265
淡水魚類	65
陸産及び淡水産貝類	15
両生・爬虫類	32
哺乳類	36
合計種数	3888
全レコード数	86873

タベースを作成し、「埼玉県生物多様性データベース(BDDS)」として2003年11月14日に埼玉県環境科学国際センターホームページで公開した(<http://www.kankyuu.pref.saitama.jp/bdds/index.html>)。



図1 WEB版埼玉県生物多様性データベースのトップページ

公開後、2004年2月末までの「埼玉県生物多様性データベース」へのアクセス数は、トップページの訪問数が4184件、ページ参照数が14092件であった(表2)。

表2 WEB版埼玉県生物多様性データベースへのアクセス数

	2003年11月	2003年12月	2004年1月	2004年2月	合計
ページ参照数	820	5,714	6,044	1,514	14092
訪問者数	48	1,255	2,167	714	4184

3 今後の研究方向等

WEBによる公開を開始した「埼玉県生物多様性データベース(BDDS)」は、現在、植物に関するデータが欠落しているなど不完全なものである。今後、さらにデータベースのWEB化を進めるとともに、文献資料等の収集を行いデータベースの充実を図る。また、現在データベースに蓄積されている情報には、調査地点など地理情報が含まれているものもある。今後、他の環境情報等を含め地理情報システム(GIS)による統合を図り、野生生物の生息条件の解析等を行う。